



世界社会奉仕 [WCS] 現物拋出 プロジェクトの事後報告:最後の大切なステップ

物資が輸送され、受領された時点でプロジェクトが終了するわけではありません。受け取る側は、寄贈品の受領から約6カ月後に概略報告を送る必要があります。また、受領者も寄贈者も、プロジェクトのプロセスを評価する時間を設けてください。効果的な事後報告を行うことで、今後の現物拋出プロジェクトの成功を約束するとともに、プロジェクト協同提唱者同士の長期的な関係が築かれます。報告書は[国際ロータリーの世界社会奉仕コーディネーター](#)までお送りください。

プロジェクトのプロセスや寄贈品について以下の事項を盛り込んでいる事後報告が、役に立つ報告です。

プロセスに関する質問

プロジェクト協同提唱者との協力活動の中で、うまくいった点はどのような点ですか。

計画や実施において、何か問題はありましたか。どうすれば、今後のプロジェクトでこのような問題を回避できるでしょうか。

現在のプロジェクト委員長は、今後のプロジェクト委員長が参照できるよう、現物拋出のプロセスを文書化しましたか。

プロジェクトの最終予算は、見積予算と比較してどうでしたか。

この協同提唱者と将来にも実施したい共同プロジェクトの案はありますか。

寄贈に関する質問

寄贈品は、期待通りの時期に良好な状態で到着しましたか。

品物を取納・配置するためにどのような手配がされましたか（例えば、学校が図書室用のスペースを割り当てましたか）。

受領者は寄贈品をどのように使用しましたか（例えば、寄贈図書を貸し出す制度がありますか）。

受領者が寄贈品を使えるようになるまで、何か最初に問題がありましたか。

寄贈品の性能はどうか。整備や修理が必要でしたか。その場合は、どのように手配しましたか。

寄贈品は現在も順調に機能していますか。していない場合は、状況を改善するために、寄贈者に何ができますか。

寄贈品はどのぐらい頻繁に使われていますか。一部の品物が他のものより頻繁に使われていますか。よく使われる品は何ですか。

この寄贈品の長期的な恩恵にはどのようなことがありますか。